



足助バイパス

整備効果について

とよた山里に吹いた新たな風

（地域とともに作り上げた足助バイパスの効果）



国道153号足助バイパスのストック効果検討会

1. 足助バイパスの事業概要	1
事業のあらまし	2
計画概要	3
変遷（開通前～H7アプローチ部開通後～H20BP部開通後～H22全線開通後）	4
2. 足助バイパスの整備効果	
2-1. ストック効果:直接効果	7
① 足助バイパスに交通が転換	8
② 歩行者交通の安全確保	9
③ 交通混雑の緩和・解消	10
④ 線形不良区間の解消	11
⑤ 通行規制の解消	12
2-2. ストック効果:地域に現れた波及効果	15
⑥ 観光活性化	16
⑦ 地域活性化・定住化促進	18
⑧ 物流効率化	19
⑨ 雇用確保に向けた取り組みの支援	20
⑩ 介護福祉への貢献（コンパクト+ネットワーク）	21
地域から寄せられた声（アンケート結果から）	22
2-3. ストック効果:ビッグデータからみた効果	25
⑪ 企業間取引の増加	26
3. 整備効果の検討経緯	29
検討会の枠組み	30
検討会の開催概要	31
4. 今後の整備への期待	33
伊勢神改良の事業概要	34
伊勢神改良に対する期待の声	35

1

あすけ 足助バイパスの事業概要

事業のあらまし

国道153号足助バイパスは、足助地区での歩行者交通の安全確保、交通混雑の緩和・解消、現道153号における線形不良・通行規制の解消を目的として、国土交通省により事業が進められ、平成22年10月30日に全線開通しました。

昭和57年度	バイパス事業化
昭和62年度	用地買収着手
昭和63年度	起点側現道拡幅部工事着手
平成 6年度	起点側現道拡幅部完成 L=0.4km
平成 7年度	バイパス部工事着手
平成 9年度	工事用道路工事着手
平成12年度	工事用道路完成 埋蔵文化財(城山城跡)調査着手
平成13年度	埋蔵文化財(城山城跡)発掘調査完了
平成19年度	バイパス部完成 L=2.5km
平成22年度	終点側現道拡幅区間完成 L=1.1km(全線開通し事業完了)

設計速度：60km/h



開通前の課題

1. 線形不良・通行規制区間が存在

■線形不良区間が存在

足助バイパス区間は、急勾配とヘアピンカーブなどの危険箇所が複数存在し、安全な走行に対する懸念がありました。



交通障害となるヘアピンカーブ
写真提供：名四国道事務所

■事前通行規制区間が存在

大雨等の異常気象時には、通行止めを行う区間があり、交通にも大きな支障をきたしていました。



異常気象による通行止め
写真提供：名四国道事務所

2. 歩行者の安全性に対する懸念

中心市街地では車道や歩道の幅員が極めて狭く、歩行者が危険にさらされていました。



歩行者にとって危険な狭い歩道
写真提供：名四国道事務所

3. 慢性的な交通渋滞

■観光期を中心とした渋滞

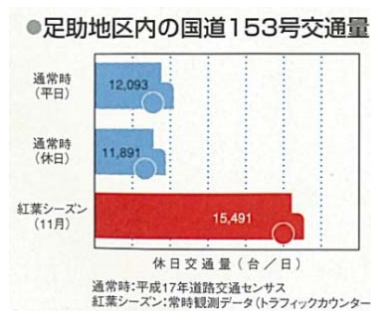
豊富な観光資源に恵まれている足助バイパス周辺は、年間100万人を超える観光客が訪れますが、反面、香嵐溪の紅葉シーズンには慢性的な渋滞が発生していました。

■通過交通の市街地への流入

町内を通過する多方面への観光車両や、中央道恵那山トンネルを迂回する危険物運搬車両が足助の中心市街に入り込んでいました。

■生活交通の確保

市街地の住人にとって生活道路でもある153号が、他の交通により、その機能が損なわれ、日常生活に支障をきたしていました。

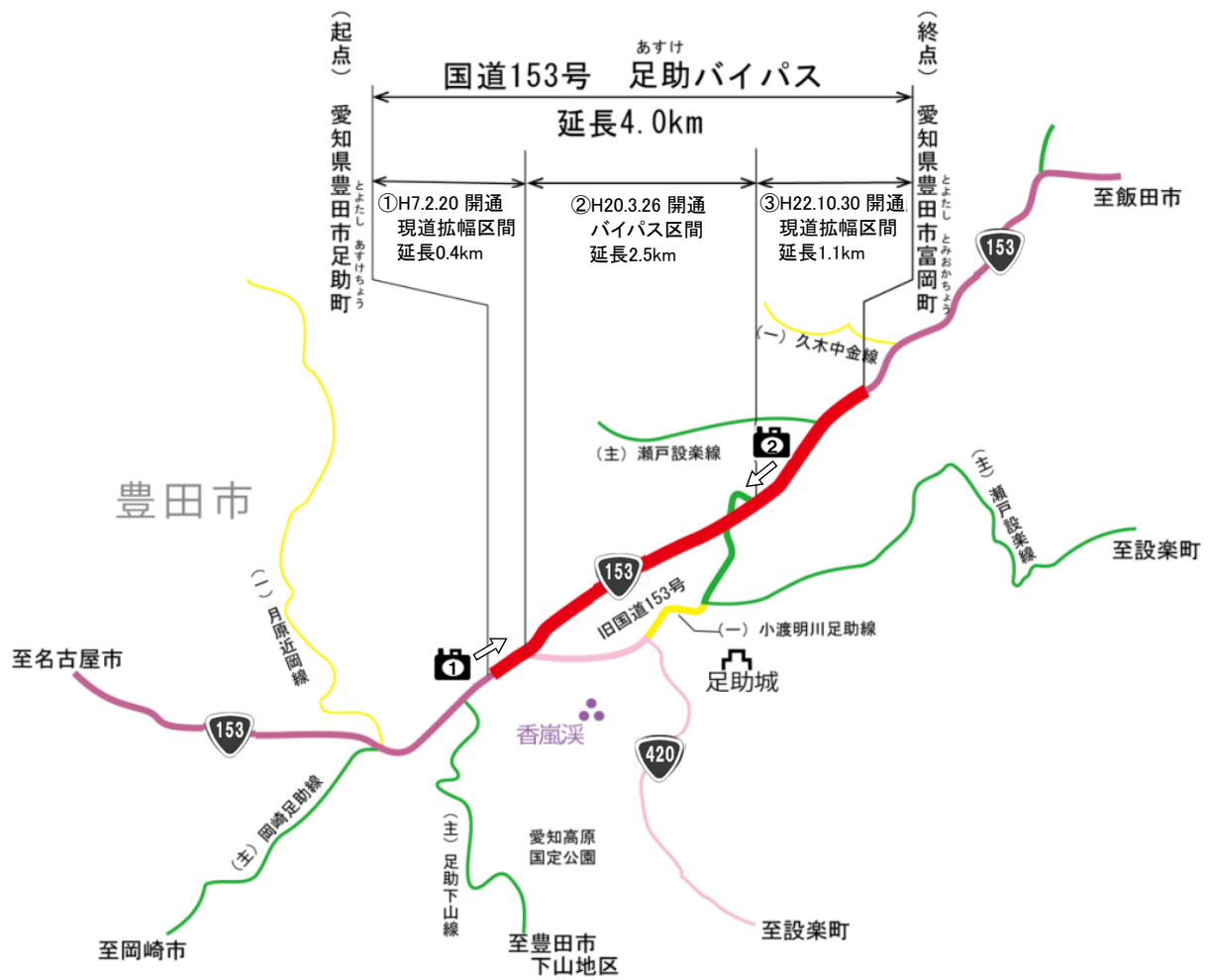


紅葉の行楽客で賑わう香嵐溪
写真提供：足助観光協会



大型・危険物車両が中心市街地を通過
写真提供：名四国道事務所

事業の変遷



写真提供：国土交通省名四国道事務所

事業の変遷

- ① 平成6年度(平成7年2月20日)
現道拡幅区間(L=0.4km)開通



写真提供:国土交通省名四国道事務所

- ② 平成19年度(平成20年3月26日)
バイパス区間(L=2.5km)開通



写真提供:国土交通省名四国道事務所

- ③ 平成22年度(平成22年10月30日)
現道拡幅区間(L=1.1km)開通により、全線(L=4.0km)開通



写真提供:国土交通省名四国道事務所

2-1

あすけ
足助バイパスの整備効果

ストック効果: 直接効果

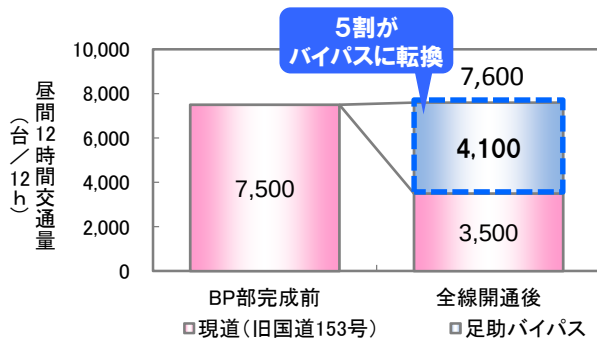
①足助バイパスに交通が転換

足助市街地に立ち寄らない通過交通が足助バイパスに転換

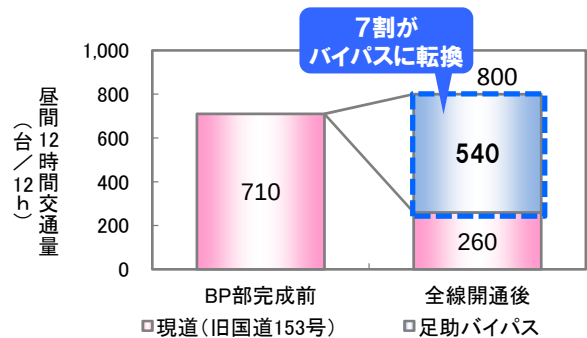
足助市街地を迂回可能なバイパスが形成され、通過交通(特に大型車)がバイパスへ転換、足助市街地から排除されました。国道153号は伊那地域への石油供給ルートとなっており、開通前は市街地に大型車が多く流入していましたが、開通後は7割がバイパスに転換しました。

❖足助バイパスの開通により、通過交通がバイパスに転換

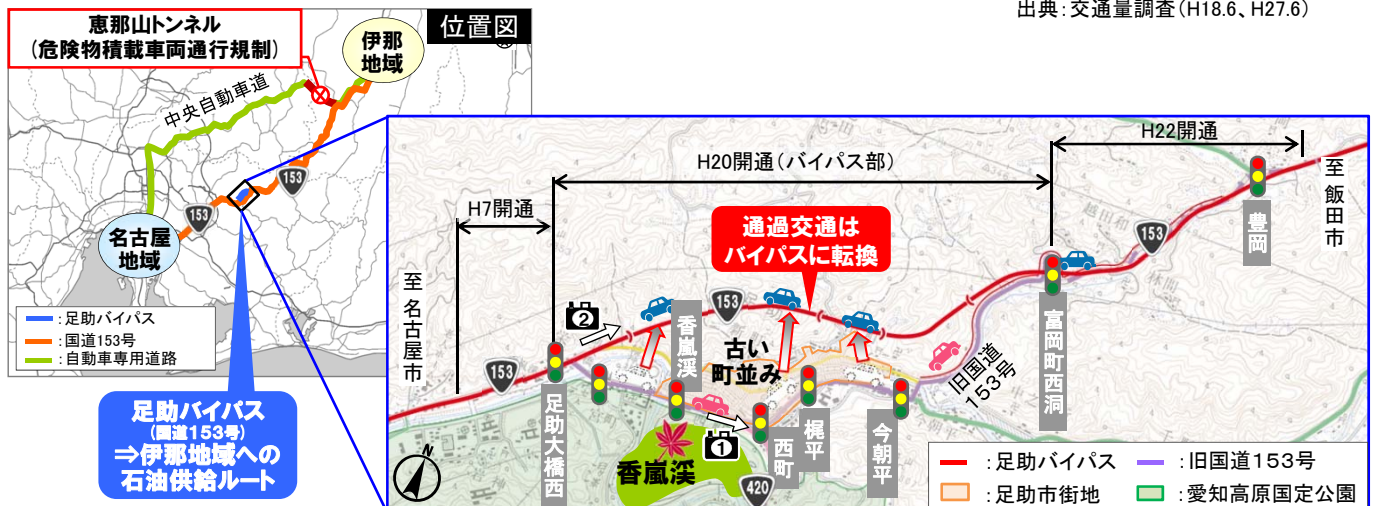
＜全体交通量の変化＞



＜大型車交通量の変化＞



出典:交通量調査(H18.6、H27.6)



利用者の声

バイパス利用で信号が少なく走りやすい

- ・現道に比べて信号が少なく走りやすくなったので、速く移動できるようになりました。
- ・足助市街地の狭い箇所を通ることがなくなり、安全でスムーズに走行できます。



地域住民

出典:ヒアリング調査

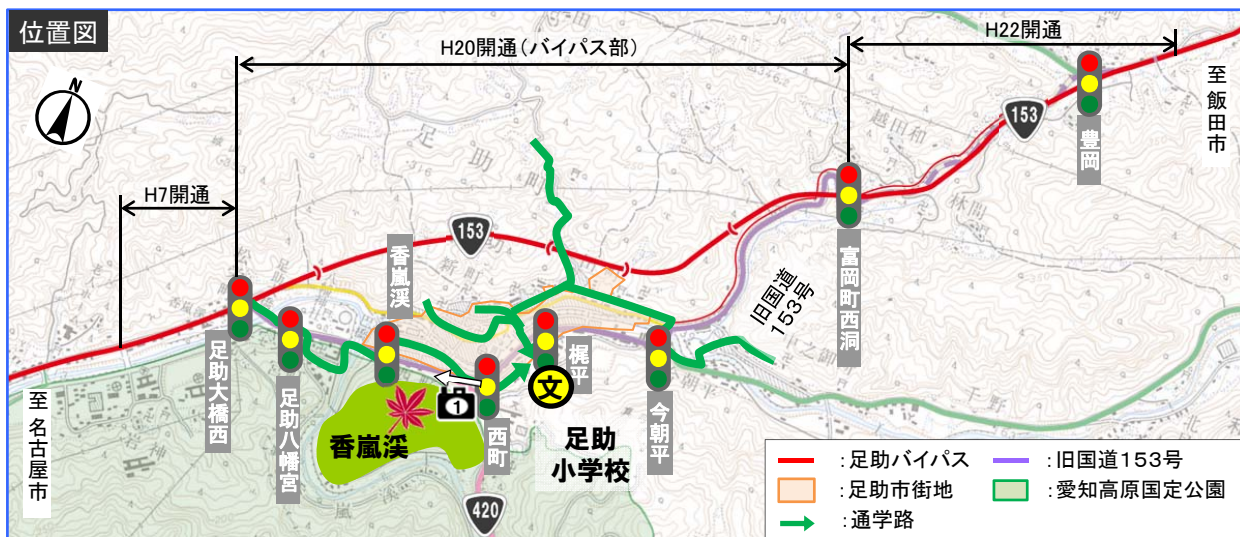
②歩行者交通の安全確保

足助市街地が静穏化し、安全安心が向上

足助バイパスの開通により、通過交通(特に大型車)が足助市街地から転換され、通学児童をはじめとする歩行者の安全性・安心感が向上しました。

交通事故も開通前に比べて約6割減少するなど、市街地の安全性が高まりました。

旧国道153号を利用する小学校の通学路



通過交通がなくなり、歩行者の安全性や安心感が向上

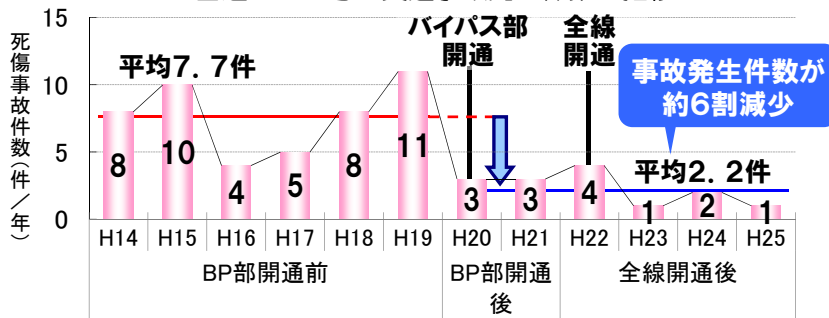


通過交通が生活圏内に入り込み
歩行者の通行が危険



市街地内の交通量が減少し
歩行者の安全性が向上

<旧国道153号の交通事故発生件数の推移>



※集計区間: 足助大橋西交差点～富岡町西洞交差点
出典: 交通事故統計データベース(H14～H25)

利用者の声

通学児童をはじめとする 歩行者の安全性・安心感が向上

- ・児童、生徒が現道を安全に登下校できるようになりました。
- ・園児が保育で散歩に出るときは、現道でスピードを落とさずに走る車両で本当に危険でしたが、すいぶん減りました。
- ・市街地を通過する車両が減少したので、安心して買い物ができるようになりました。



地域住民

出典: ヒアリング調査

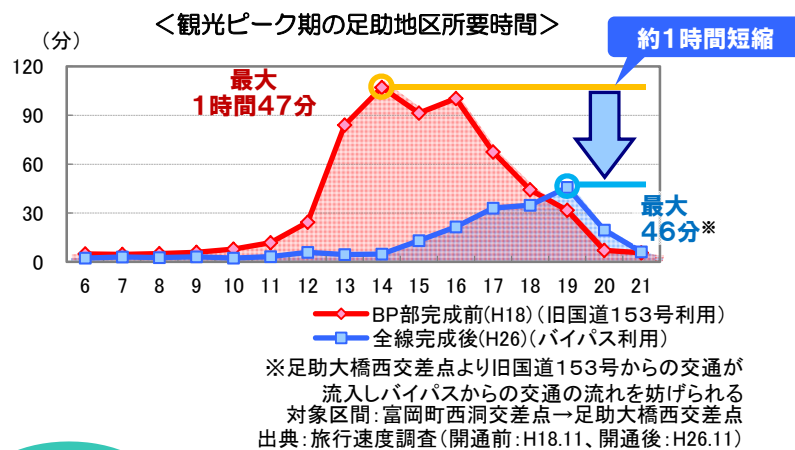
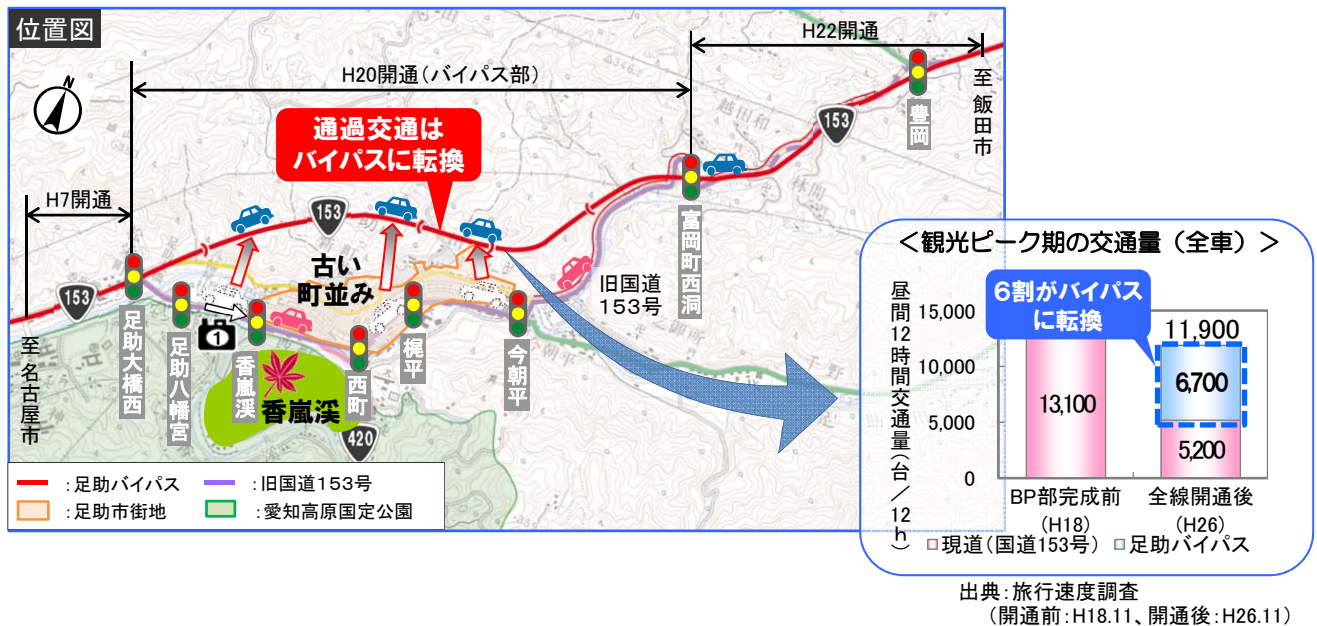
③交通混雑の緩和・解消

渋滞の影響が大幅に緩和

バイパスを利用することにより、ピーク期には渋滞が発生する香嵐渓駐車場へのルート選択ができるようになり、観光客の利便性が大幅に向上しました。

また、従来は観光渋滞に巻き込まれていた物流車両への影響も解消しました。

観光ピーク期における所要時間の短縮



利用者の声

信号数の減少により走行性が向上

- ・現道に比べて信号が少なく走りやすくなったので、速く移動できるようになりました。



観光ピーク期の定時性が向上

- ・以前は市街地の紅葉シーズンの渋滞により、配送先への到着が大幅に遅れる場合がありましたが（午前到着が午後になるなど）、現在は緩和されました。
- ・紅葉シーズンに渋滞している市街地を通過する必要がなく、安心して走行できます。



出典：ヒアリング調査

④線形不良区間の解消

急カーブ区間が解消し、救急車の安定走行が可能に

救急搬送の主要ルートとして活用される国道153号の走行性が向上し、患者さんにかかる身体的な負担が軽減するなど、救急医療サービスの質の向上に貢献しています。

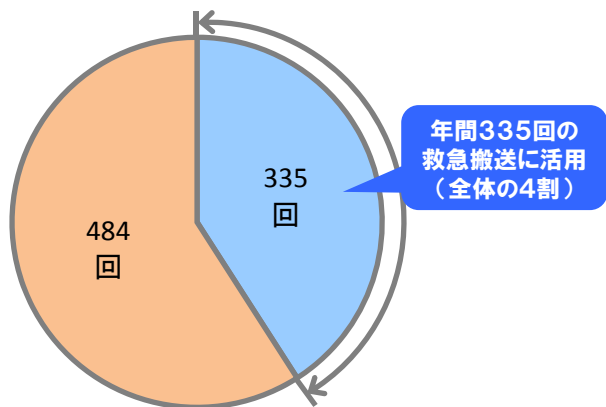
開通後には、ほぼ1日に1回の救急搬送に活用(335回)されています。

◆バイパスの整備に伴う道路線形改良による急カーブ区間の解消



※急カーブ: 最小半径70m以下

<救急搬送における足助バイパスの利用状況>



※総救急出動回数(H26.4~H27.3): 819回
出典: 豊田市消防本部足助消防署



急カーブにより見通しが悪い

利用者の声

救急搬送時の安定走行が可能に

- 曲がりくねった道路を走る必要がなくなり、迅速かつ患者さんへの負担が少なく搬送できるようになりました。
- 豊田市中心部(トヨタ記念病院など)へ搬送する場合に、足助バイパスは有用であり、利用しています。



消防署職員

出典: ヒアリング調査



線形改善し、救急搬送の4割が利用

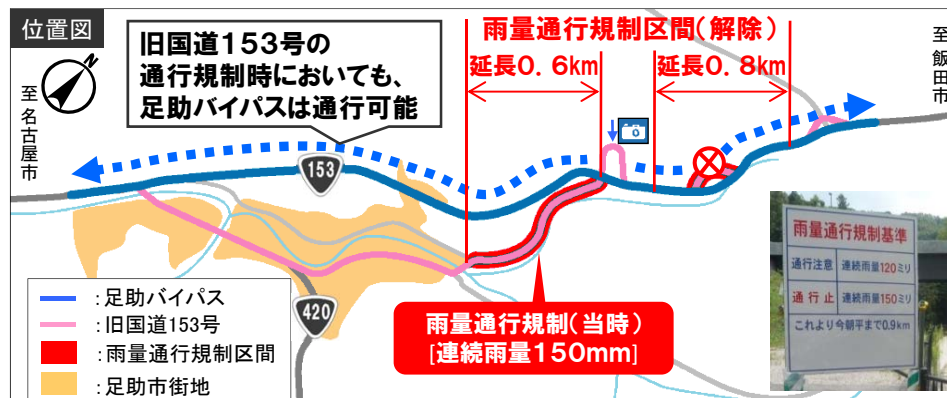
⑤通行規制の解消

バイパスの整備により、雨量通行規制区間を回避

バイパスの開通により、大雨の際に通行止めとされていた区間を迂回することができるようになり、約1,400世帯・4,400人の方々が孤立する危険性を解消しました。

バイパスを通行することで、豪雨等の異常気象時でも安全・安心な通行が可能となりました。

◆雨量通行規制区間の回避



<足助バイパスの整備による地域の孤立回避事例>

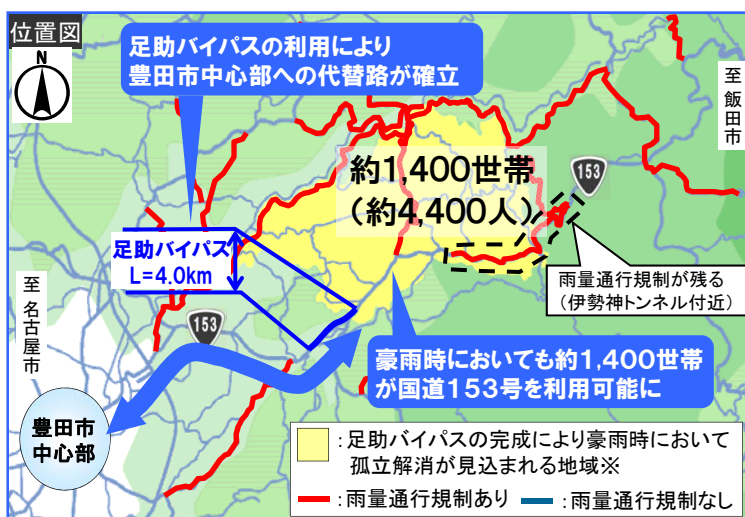
平成23年7月20日(水)、台風6号により足助周辺の旧国道153号区間にて約10時間の通行止めが発生。

⇒足助バイパスは通行可能だったため、地域の孤立を未然に回避

規制実施日	規制開始	規制解除	規制時間	要因
平成23年7月20日(水)	1時10分	10時40分	9時間30分	連続雨量が150mmに達したため

足助周辺の旧国道153号区間における雨量通行規制は平成27年3月31日をもって解除
※伊勢神トンネル付近の雨量通行規制は継続。

◆豪雨等、異常気象時における地域の孤立が解消



※国道153号経由で行き来できなくなると想定される地域
人口データ: H22国勢調査

異常気象時でも 安全・安心な通行を確保

- ・豪雨時に国道以外の狭く、カーブの多い道路などを使用せずに済むので安心です
- ・足助バイパスは道路として整備が行き届いているので、豪雨時でも安心して通行できます
- ・地域が寸断されることがないので、安心感があります
- ・道路が多ければ、緊急時の移動がスムーズになります

利用者の声



地域住民

異常気象時の通行止めの 不安が解消

- ・異常気象時でもスムーズに現場まで向かうことができます
- ・気象条件による通行止めの不安が解消しました



消防署職員

2₋₂

あすけ
足助バイパスの整備効果

ストック効果:地域に現れた波及効果

⑥観光活性化

「点」の観光から町全体が一体となった「面」の観光へ

市街地に入り込んでいた通過交通がバイパスに転換し、現道153号の道路敷を利用できるようになり、それまで分断されていた「香嵐溪」地区と「古い街並み」地区が一体となったイベントが開催可能になりました。（「点」の観光から町全体が一体となった「面」の観光へ）

❖香嵐溪と古い街並みが一体となったイベントの実施が可能に



＜古い街並みと香嵐溪が一体となったイベントの例 (中馬のおひなさん：2～3月)＞



資料提供：足助観光協会

関係者の声

街全体が一体となった”面の観光”が実現

- ・足助バイパス開通後は、香嵐溪と古い街並みが一体になり、これまでよりも規模の大きなイベントが実施できるようになり、“点の観光”から“面の観光”に変わりました。



足助まちづくり
推進協議会

出典：ヒアリング調査

■古い街並みの景観整備により 街のにぎわいが創出

- ・足助地区は、旧街道沿いの元宿場町であり、バイパス整備と併せて古い街並みを整備。官民が連携し、古い街並みの再構築として、無電柱化工事（H21～H25年度、L=1,790m整備）などを行い、H27に第10回まち交大賞を受賞。



H23年8月撮影



H26年2月撮影

写真提供：豊田市役所足助支所

⑥観光活性化

年間を通した通年型観光地への取り組みを支援

足助バイパスの開通を契機として、足助地区の象徴でもある古い町並みの再生事業などに取り組むとともに、新規イベント(特典型スタンプラリー・朝市など)の企画等、通年にわたりイベントが盛んになり、オフピーク期の観光客数が増加しています。

❖足助バイパスの整備を契機としたイベントの活性化

■古い町並みの景観整備により 街のにぎわいが創出

足助バイパスの整備

市街地への流入交通が
半減

・旧国道153号の道路敷
を活用しやすくなり、街
全体が一体となった“面
の観光”が可能に
・オフピーク期のイベント
の規模が拡大

オフピーク期の観光客が
増加

■年間を通して開催される足助のイベント

足助春まつり



道路敷を活用した山車の引き廻しが
盛大に

たんころりん



景観整備と相俟って、提灯の陳列エリア
が拡大

香嵐溪もみじまつり



資料提供：足助観光協会

2・3月

中馬のおひなさん



景観整備とも相俟って、
当初15件の展示軒数が10倍に

4月

5月

あすけルネッサンス



街全体を活用したスタンプラリー
や新たなイベントが開始

8月

10月

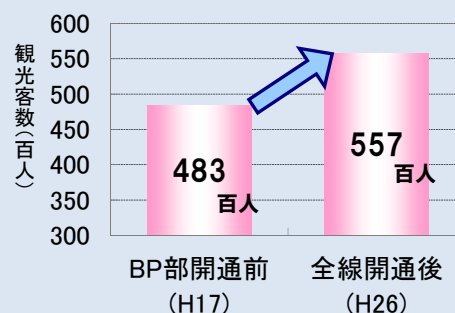
足助まつり



道路敷を活用した山車
の引き廻しが盛大に

11月

■オフピーク期の観光者数



街の一体化および通年
観光地化を進めたこと
で、年間約7千人の観
光客増加に寄与

出典：足助観光協会

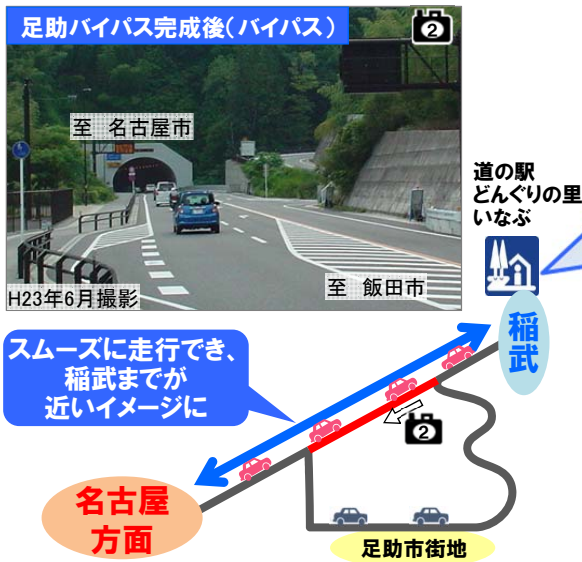
⑦地域活性化・定住化促進

地域の魅力に触れるきっかけを創出

バイパス開通により、さらに内陸部の稲武地区へ足を延ばしやすくなり、道の駅「どんぐりの里いなぶ」では来場者や地場の農産物の売り上げが増加しました。

道の駅で地場の新鮮な野菜に触れたことをきっかけに、稲武地域へ移住した方もおられます。

◆バイパス整備に伴い、稲武地区へ足を伸ばしやすく



■稲武地域の地方創生拠点 重点道の駅「どんぐりの里 いなぶ」

道の駅が地域の「総合案内窓口」として情報発信や各種体験の場所を提供

<どんぐり横丁>



<遊び体験>



<調理体験(どんぐり工房)>

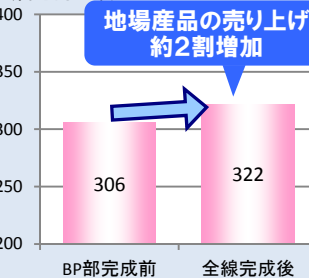


<工芸品づくり体験>

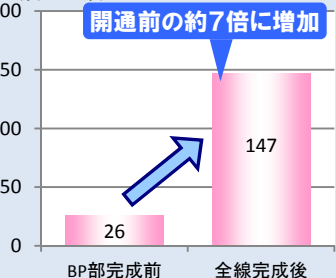


写真提供: いなぶ観光協会

【どんぐり横丁売上の推移】
(百万円/年)



【どんぐり工房来場者数の変化】
(百人/年)



データ提供: 道の駅「どんぐりの里いなぶ」、いなぶ観光協会

関係者の声

地域活性化

稲武を目的地として来訪される方が増加

足助まで訪れる人は多かったが、足助市街地で迷っていました。開通後は足助バイパス経由で、稲武を目的地として来訪するようになりました。伊勢神トンネルが改良されると、観光バス等はさらに来やすくなります。



道の駅駅長

定住化促進

稲武まで足を延ばせたことが移住につながった

どんぐりの里で買った農産物がおいしかったので、自分で生産するべく、稲武に移住(1ターン)しました。今では、道の駅で自分の名前入りの野菜を売れることに生きがいを感じています。



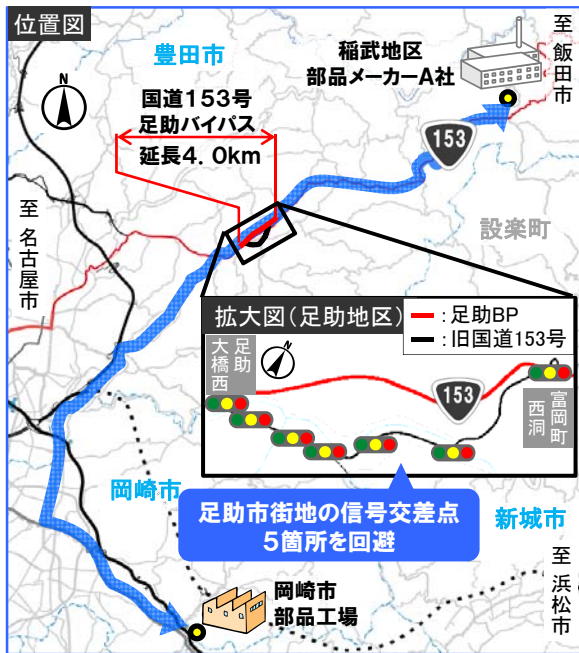
農業生産者
(50歳代・男性)

⑧物流効率化

物流体系の見直しに貢献

稲武地域に立地する部品メーカーA社では、所要時間短縮・安定化により、製品出荷のために委託していたトラックの台数削減が可能となり、物流コストの削減を実現しました。

◆部品メーカーA社で実現した物流の効率化

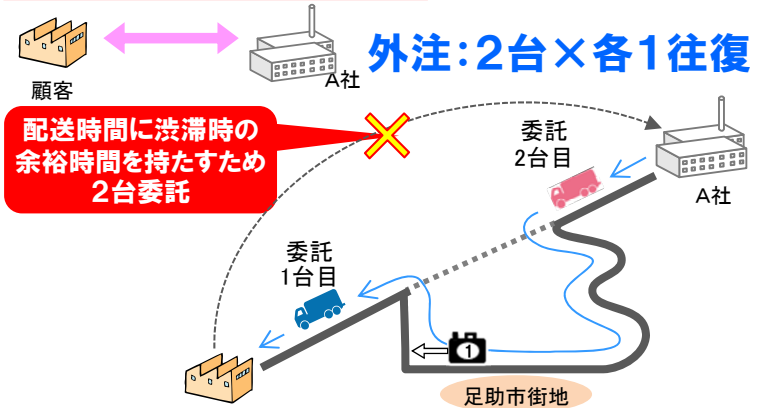


■稲武地域を代表するものづくり企業A社

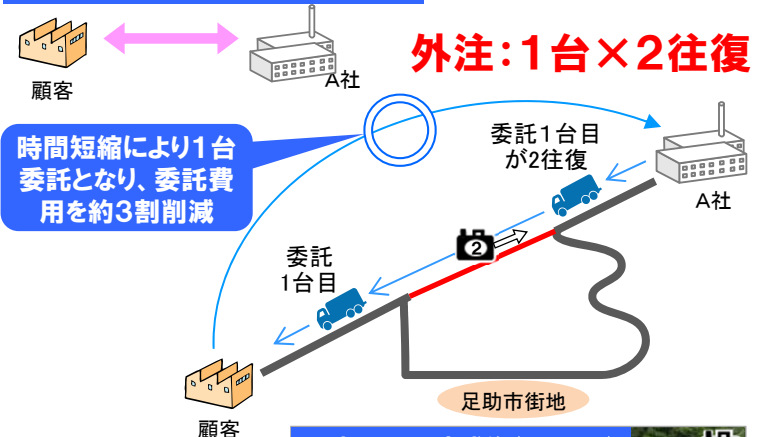
- ・A社は、昭和43年、稲武町（現豊田市）に工場を新設し、現在まで操業。
- ・自動車のリフレクター（自動車ライトの反射板）を製造しており、国内外の自動車メーカーに納品。
- ・ポリカーボネート樹脂を用いた交通信号灯の量産を手掛ける。昭和52年には警察庁の認定品として仕様化され、中小企業庁長官賞も受賞。



足助バイパス完成前:足助市街経由



足助バイパス完成後:足助市街迂回



出典:ヒアリング調査

顧客への効率的な納品が可能に

- ・足助バイパスの開通により、所要時間が読めるようになったことで、道路利用が便利になりました。
- ・足助バイパス開通前は、地区外の運送業者から敬遠されていましたが、足助バイパスの開通による運送エリア拡大をうけ、急な注文にも応じてくれるようになりました。

利用者の声



出典:ヒアリング調査

⑨雇用確保に向けた取り組みの支援

地域の雇用確保に向けた取り組みを後押し

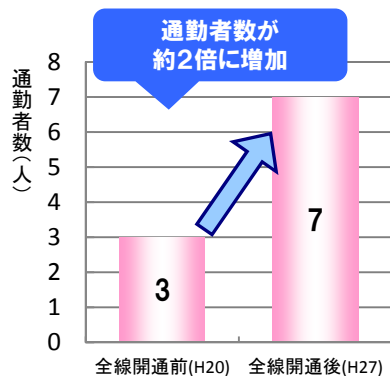
ミライ・プリウス等にシートカバーを提供する製造業B社は、稲武地区で古くから地域の産業と雇用を担ってきましたが、従業員の確保が事業存続上の大きな課題となっていました。足助バイパスの整備により遠方からの通勤者が増加しました。またB社では、自治体と連携し、定住化のための新たな取り組みを始めましたが、バイパスの開通により稲武地域が身近になり、こうした取り組みを後押ししています。

❖ 遠方からの従業員を獲得

＜足助バイパスを利用した通勤経路＞



＜足助バイパス利用エリアからの通勤者数の変化＞



データ提供: B社

■ 地域経済を支えるB社

■ 生産品目:

自動車用シートカバー

■ 生産車種: ミライ(F C V)、プリウス、クラウン、ハリアー、エスティマ、IQ等

■ 生産量: 約20万SET/年



写真提供: B社



H27年4月撮影

・B社は、昭和39年、稲武町(現豊田市)の過疎化対策の一環として町の工場誘致を受け、愛知県山間僻地進出第一号の会社として設立。

・以来、長らく地元の雇用を守ってきており、平成24年現在、稲武地区における製造業の雇用の約4割を担っている。

❖ 定住化の取り組み「OPEN INABU」

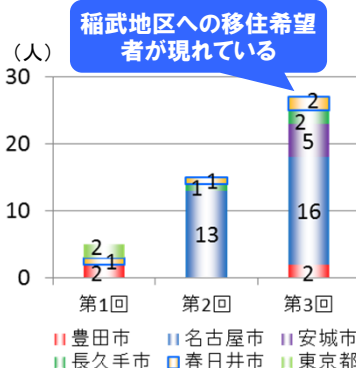
- ・B社は、豊田市と進める定住化促進イベント「OPEN INABU」を今年から主催。
- ・これまでに3回開催し、参加者述べ50名のうち、2名が稲武地区に家を建て移住する方針。



第3回には豊田市長も参加(B社での集合写真)

資料提供: B社

【OPEN INABU参加者内訳】



関係者の声

バイパス開通後「意外に近い」という声が聞かれるように

- ・距離感を縮めることが今後の雇用を守ることにもつながると考えており、OPEN INABUの参加者からは「遠いイメージがあったが意外に近い」との意見を頂きました。
- ・従業員として移住してくれば、生産量を増やすことや新しいチャレンジも可能になると考えています。



B社役員

⑩介護福祉への貢献(コンパクト+ネットワーク)

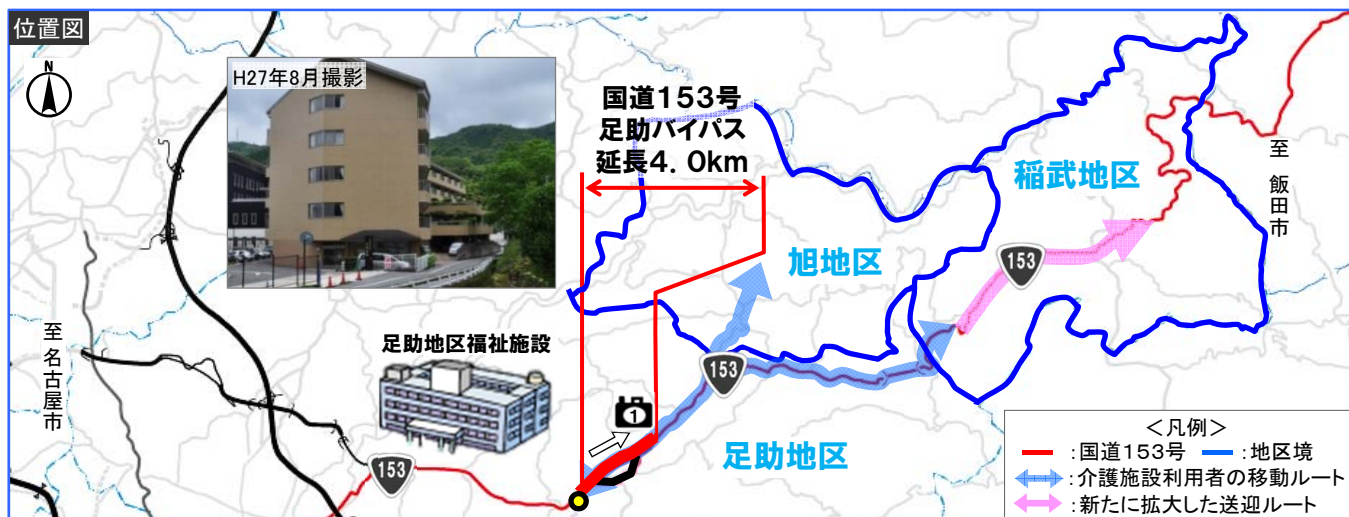
介護施設の送迎可能範囲が拡大

足助地区に拠点を置く介護施設では、デイサービスなどの送迎範囲を「30分圏」内としています。

バイパスの開通により移動時間が短縮したことで、利用者の身体的負担が軽減されるとともに、これまでは利用可能圏外であった稲武地区の方も利用できるようになりました。

◆足助地区を拠点とする介護福祉施設(ショートステイ)の送迎可能範囲が拡大

■足助バイパス沿線からの介護福祉施設利用者が増加

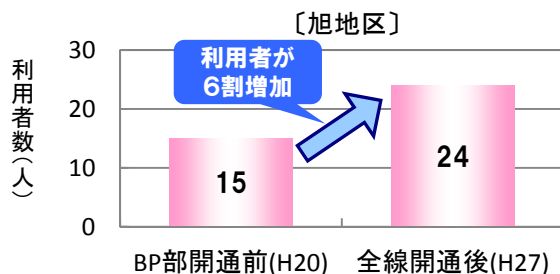
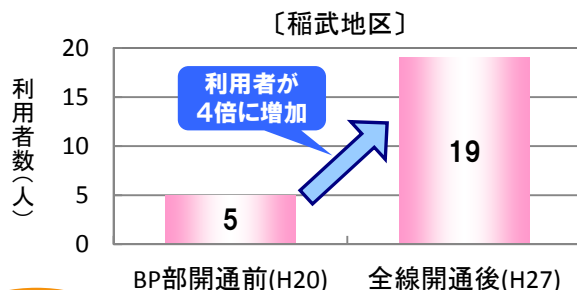


■足助バイパス開通による線形改善が お年寄りの身体的負担を軽減

- ・足助バイパス開通により、9箇所の急カーブが解消。送迎ルートが拡大。
- ・ショートステイ送迎時に利用者の身体にかかる負担が軽減。

バイパス開通により、
急カーブ※箇所を回避

※急カーブ: 最小半径70m以下



出典: 足助地区福祉施設

利用者の声

送迎時の安定走行が可能に

- ・バイパスができて移動時間が短縮され、カーブの減少により安心して走行できるため、稲武地区内での送迎可能範囲が拡大しました。
- ・医療機関や福祉施設へ利用者を搬送する際、乗車時間の短縮とカーブの減少により、利用者の身体的な負担が軽減されました。



福祉団体職員

出典: ヒアリング調査

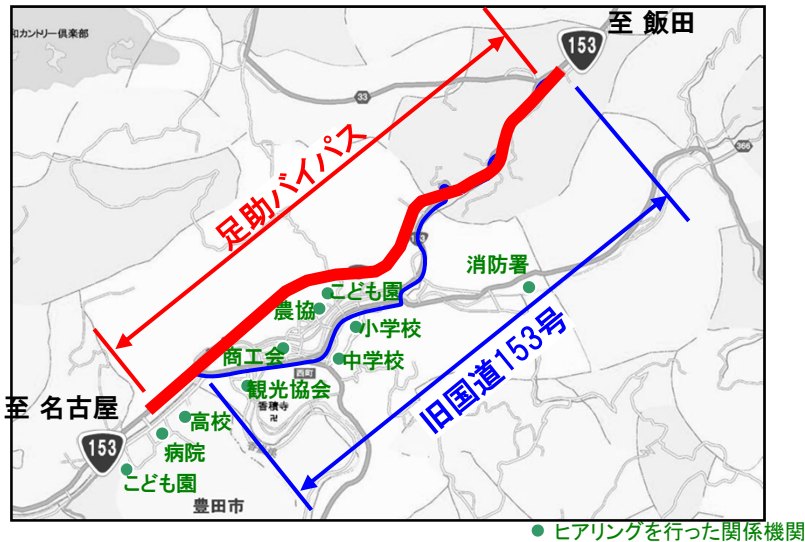
地域から寄せられた声（アンケート結果から）

地域住民の暮らしが変化

足助バイパスは平成22年10月30日に全線開通しましたが、地域にお住まいのみなさまに交通状況・日常生活・地元産業等の変化についてお聞きました。

全線開通から約5年が経過し、地域にお住まいのみなさまの生活に様々な波及効果が現れています。

＜ヒアリングを行った関係機関の位置図＞



■ 地域にお住まいのみなさまからいただいた声（平成23年1～2月実施のヒアリング調査より）

活 力



バイパス道路が広くなり、とても運転しやすくなりました。荷物も遅れずに届くようになりました。（農協）

稲武方面からバイパスを通して出勤している人たちは、出勤時間が平均5～10分短縮されました。（こども園）



以前と比べて現道の大型車両の通行が減り、停滞もなく非常に便利になりました。（病院）

現道の渋滞が減り、園児の送迎がスムーズになったと聞いています。（こども園）

観光シーズンの渋滞が（以前よりは）少なくなったと、地元のタクシー運転手が言っていました。（自治会）

安 全



バイパスの道幅が広がり、カーブの見通しが良くなったので、消防車が現場に早く向かえるようになりました。（消防署）

バイパス道路の改良によりバスを運行しやすくなりました。（バス会社）

現道のヘアピンカーブで大型トラックとすれ違わなくてすむので良かったです。（自治会）



児童生徒が現道を安全に登下校できるようになった。積雪時の通行が以前よりも安全になりました。（小学校）

園児が保育で散歩に出かけるとき、現道をスピードを落とさずに走るトラックで本当に危険だったが、バイパス開通により、ずいぶん減りました。（こども園）

環 境



町内では現道の大型車の通行が減り、静かになりました。（観光協会）

現道の排気ガスが少なくなって市街の空気がきれいになりました。（小学校）

そ の 他



現道沿いの足助市街地への車の通行量が減少し、市街地内の商店に影響がでています。（商工会）

全般的に交通がスムーズになりましたが、紅葉シーズン最盛期の土日の渋滞は前と変わっていません。（自治会）

バイパス道路が良くなった分、スピードを出す車も増えています。（観光協会）

2-3

足助^{あすけ}バイパスの整備効果

ストック効果:ビッグデータからみた効果

⑪企業間取引の増加

企業間取引が増加し、地域経済が好循環

足助バイパスの開通により、足助地区、旭地区、稲武地区など豊田市山間部に立地する企業の域外との取引が約7割増大しました。これまでは取引のなかったエリアの企業との取引が可能となったことで生産性が高まり、約6割の企業が利益を拡大するなど、経営状況の厳しい企業の収益性向上により、民間投資の拡大に一役買っています。

❖道路整備を契機に地域経済が好循環

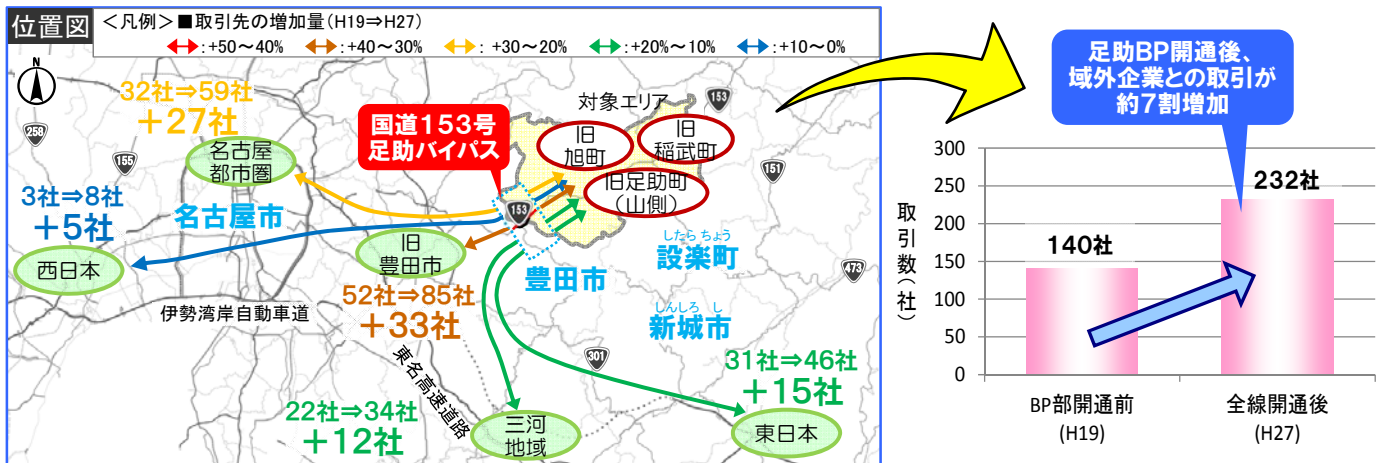
＜道路整備を契機とした地域経済の好循環（イメージ）＞

道路整備に前後して沿線に企業が進出し、整備効果発揮により沿線企業の収益性が向上し、ひいては民間投資の拡大につながる。



❖足助バイパスの開通後、企業間取引および利益が増加

＜STEP2：企業間取引が増加（H19⇒H27）＞

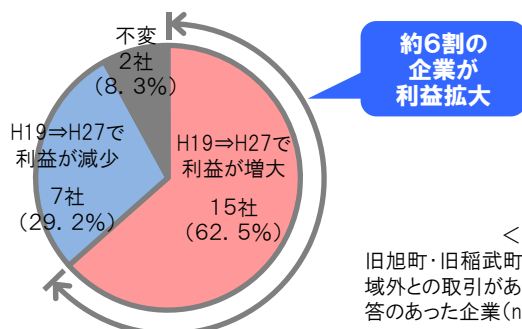


＜対象企業＞

対象エリア(旧旭町・旧稲武町・旧足助町山間部)にH19時点で立地し、域外に取引先を持つ企業(n=39社)

出典: TSR企業情報ファイル((株)東京商工リサーチ)

＜STEP3：沿線企業の利益が増大（H19⇒H27）＞



出典: TSR企業情報ファイル((株)東京商工リサーチ)

■企業間取引データの概要

＜データ概要＞

- 信用調査の専門会社が各企業に対し、会社概要や主要な取引先等をヒアリングして収集、データ化したもの。

＜データの特徴＞

- 事業所単位ではなく本社単位の調査となるため、地方部では中小企業のデータが中心となる。

3

整備効果の検討経緯

地域のみなさまとともに道路の効果を議論

地域のみなさまとともに考え、発信し、地方創生を

地域の悲願であった「足助バイパス」が平成22年10月30日に開通し、5年が経過したところで、この間に沿線地域ではさまざまな効果が出てきています。

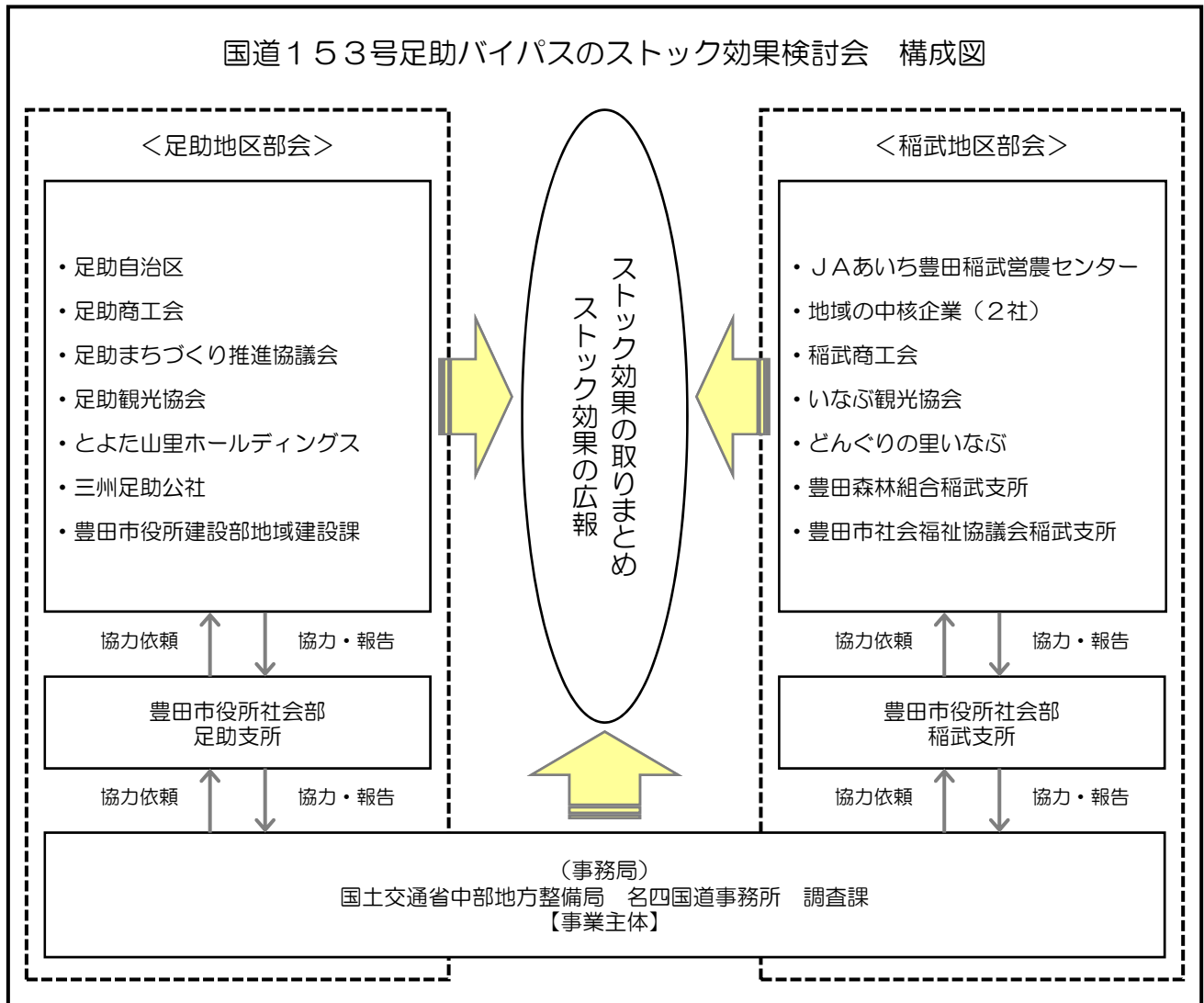
この5年間の「ストック効果※」を、地域住民・企業など各種団体・行政が一体となって掘り起こし、「まち・ひと・仕事」の観点からとりまとめ、発信することで、更に人を呼び込み、職が増え、安心して暮らせる地方創生となることを目指し、検討会を設置し、取り組んでいます。

※ストック効果…道路が整備され供用されることで、人流・物流の効率化、民間投資の誘発や観光交流、人口・雇用などを増加させ長期的にわたり経済を成長させる効果

◆検討会の仕組み

検討会は、足助地区・稲武地区に部会を設置し、それぞれの地区に現れた効果について議論しました。

～地域と一緒に作りあげるストック効果～



検討会の開催概要

❖開催概要

足助地区部会（平成27年8月開催）



■挙げられた主な意見

- ・足助バイパスの整備により、通過交通が街中を通らなくなり、イベントの際の渋滞が減少しました。このため、足助よりも奥のエリアでは便利になったと思います。
- ・バイパスの開通によりイベントのやり方が変わりました。以前は通過交通が多く、現道を横断することが容易ではなかったため、イベントも現道で分断されるかそれぞれの側でしかできませんでした。バイパス開通後は、現道から通過交通がなくなったため、街中を使いやすくなりました。「点」の観光から「面」の観光に変わりました。
- ・毎年5月3・4・5日に「足助ルネッサンス」として、街中の各施設を活用して主に子供が1日中楽しめるイベントを開催しています。このイベントは、長らく香嵐溪だけのイベントでしたが、今では足助の街全体が一体となって実施できるようになり、規模も大きくすることができるようになりました。
- ・足助よりも山側の方は、豊田市が通勤圏となっているが、通勤時に時間が短縮するなど利便性は向上している。
- ・生活環境面でいけば、資料にあるように、市街地を通過する大型車は大きく減り、事故は減少した。
- ・地元としては、国道153号追分交差点から足助側が引き続き混雑している。

稲武地区部会（平成27年8月開催）



■挙げられた主な意見

- ・足助バイパスの開通により、時間短縮効果はもちろん発現していますが、利用者が稲武を目的地として来訪するようになったことが大きな効果だと実感しています。＜稲武商工会＞
- ・食料品の仕入れ業者の話では、足助バイパス開通前は配送時に精神的な負担があったり、香嵐溪の観光ピーク期には配送時間を要するために稲武までどのように配送するか悩まれていたそうです。バイパス開通後は、配送時間が読めるようになったため、営業範囲を拡大し、営業先を増やしたと聞いています。また、配送回数も週1回から週2回に増やしてもよいという話をいただいています。
＜どんぐりの里いなぶ＞
- ・生産者の中には、農業を行いたいと希望されて1ターンで居住するようになった方もおられます。また、稲武では畑付の家を5年間借用する制度がありますが、現在のところ希望者が多く、順番待ちの状況となっているようです。＜稲武営農センター＞
- ・福祉協議会では、福祉車両で車いすや寝たきりの方の送迎を行っていますが、バイパス開通後は、運転する側にとっても身体が不自由な方にとっても負担が軽減したと感じています。そのため、送迎範囲が広がりました。＜豊田市社会福祉協議会 稲武支所＞
- ・稲武としても、こうした社会資本ストックの整備を最大限に活かし、地方創生をしていきたいと考えています。＜豊田市役所稲武支所＞

4

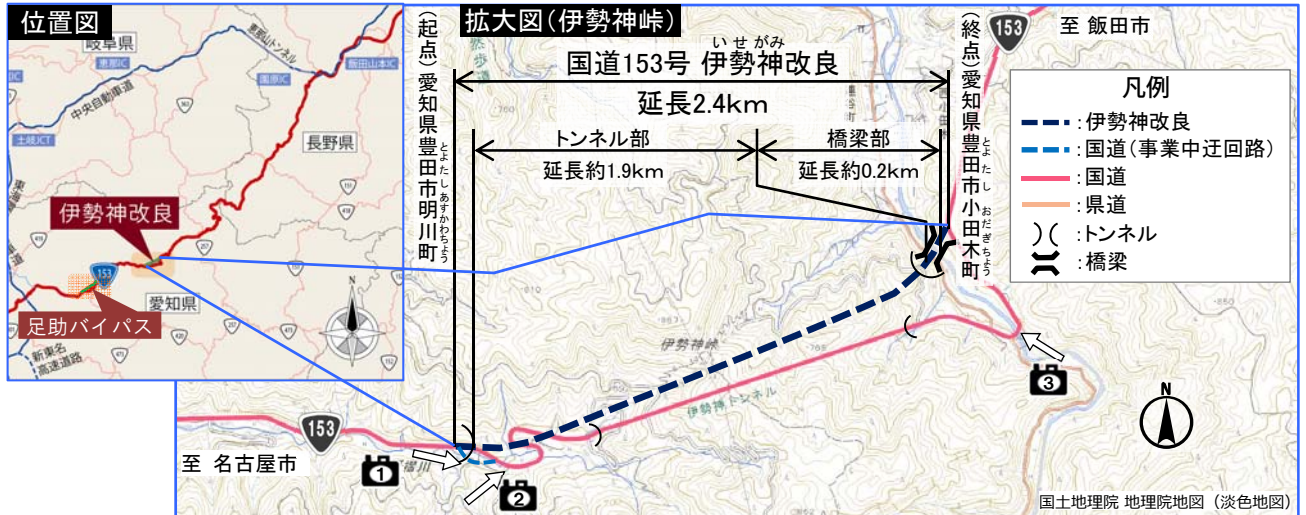
今後の整備への期待

伊勢神改良の事業概要

平成22年10月に、国道153号足助バイパスが全線完成し、足助地区での歩行者交通の安全確保、交通混雑の緩和・解消、現道153号における線形不良・通行規制の解消などの効果が発現しています。

足助バイパスと相乗した整備効果の発現に向け、国道153号の更なる利便性向上として、国道153号伊勢神改良が行われています。

伊勢神改良区間位置図



写真提供：国土交通省名古屋国道事務所

あらまし

国道153号は、愛知県西三河地域と長野県伊那地域の物流を担うとともに、豊田市中心部と明川・稲武地区を結ぶ唯一の幹線道路として地域の生活を支えています。

国道153号伊勢神改良は、伊勢神トンネルの断面不足による高さ制限・大型車すれ違い困難の解消や伊勢神トンネル前後区間の線形不良箇所（急カーブ、急勾配）の回避及び災害に強い幹線道路としての信頼性向上を目的に、平成24年度に事業化されました。

経緯

明治30年度	伊世賀美隧道完成
昭和35年度	伊勢神トンネル開通
昭和46年度	伊勢神トンネル無料開放
平成12年度	伊世賀美隧道が国の登録有形文化財に指定
平成19年度	大型車接近表示システム運用開始
平成24年度	伊勢神改良事業化

計画の概要

事業名：国道153号 伊勢神改良

事業主体：国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所

起終点：（自）豊田市明川町～（至）豊田市小田木町

事業化：平成24年度

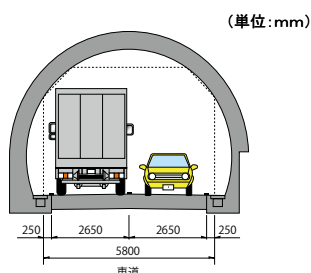
延長：2.4km

道路規格：第3種第2級

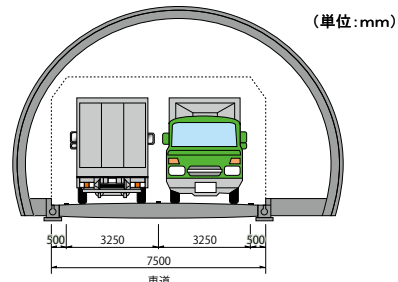
車線数：完成2車線

設計速度：60km/h

【トンネル部現況断面】



【トンネル部計画断面】



内陸部の生活インフラの供給に貢献

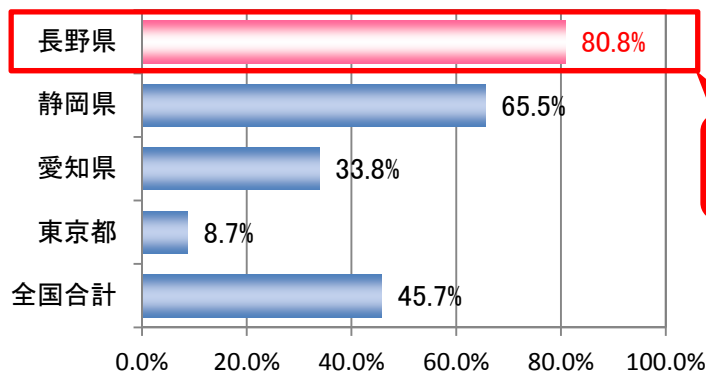
中央自動車道の恵那山トンネルは、危険物積載車両の通行が禁止されているため、危険物輸送は国道153号（伊勢神トンネル）が運搬経路として利用されています。

名古屋方面から飯田方面へのLPガスの輸送は、伊勢神トンネル区間を利用しており、トンネル断面が小さいことでの車線逸脱やその前後区間の線形不良箇所により、重大事故につながる恐れがあるため、伊勢神改良事業により、安心・安全でスムーズな輸送が期待されます。

◆国道153号は恵那山トンネルを通行できない危険物積載車両の輸送ルート



＜都道府県別LPガス普及率＞



長野県はLPガス普及率が高く、国道153号は内陸部の社会インフラの供給を支える役割を担う

※日本エルピーガス連合会調べ(平成23年度)

利用者の声

スムーズな輸送が期待

- ・伊勢湾沿岸にあるLPガスの輸入拠点（碧南、知多、名古屋、四日市）から、飯田・諏訪方面に一日4往復程度、国道153号（伊勢神トンネル）を利用して運搬しています。
- ・伊勢神トンネルの断面が小さいことやトンネル前後区間が急カーブ・急勾配であるため、輸送経路において最も注意する区間であり、改良による快適性、安全性の向上を期待しています。



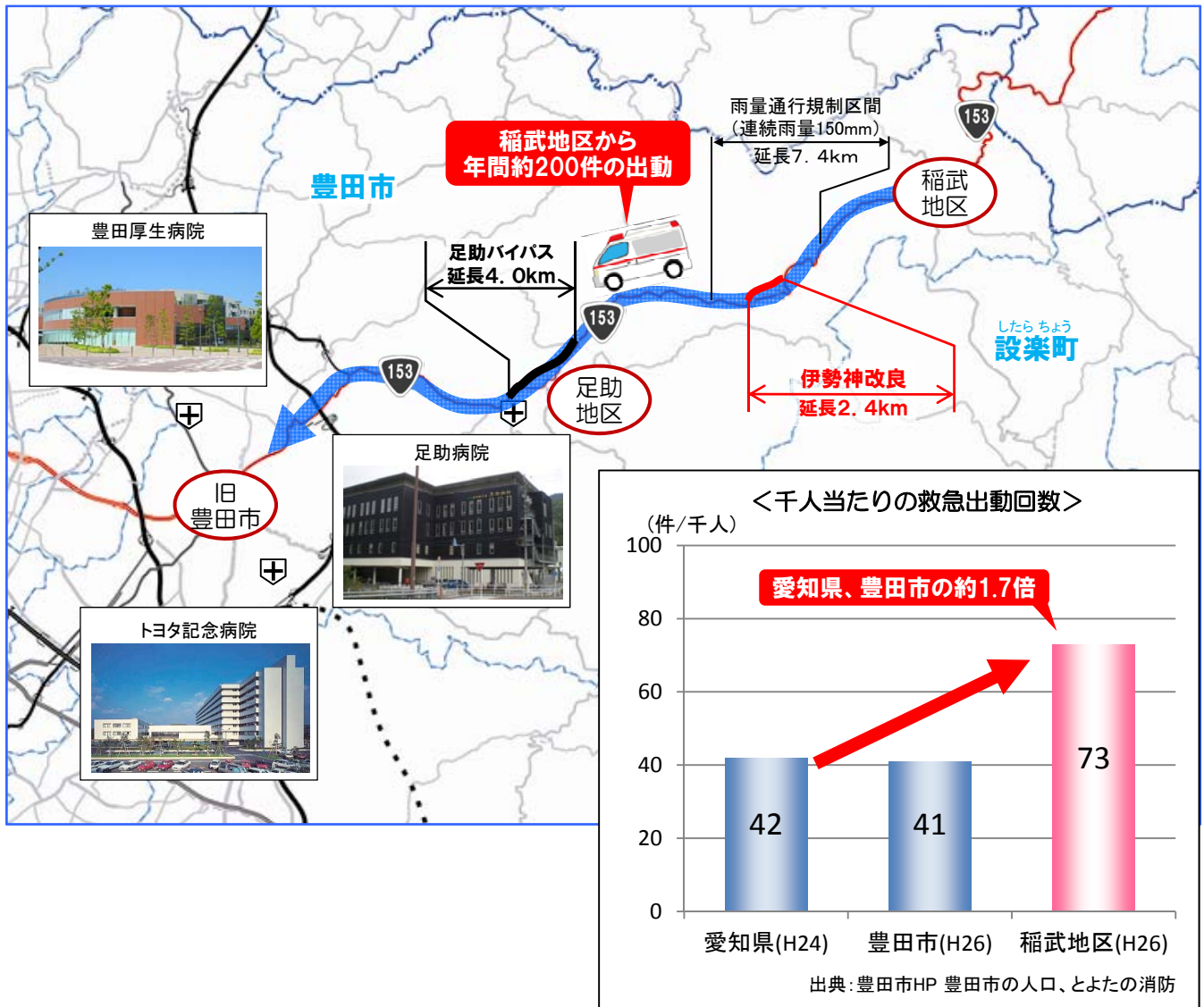
出典: ヒアリング結果(名古屋国道事務所実施)

救急医療サービスの支援

稲武地区から第三次救急医療施設への搬送は、国道153号(伊勢神トンネル)を利用しており、救急医療活動において「いのちの道」として重要な役割を担っています。

救急搬送時において、急カーブ・急勾配での車体の揺れが軽減されることで、搬送患者の負担軽減にもつながることが期待されます。

◆稲武地区からの救急搬送先と搬送ルートに利用される国道153号



利用者の声

災害危険性の低減に期待

- 国道153号(伊勢神トンネル)は異常気象時通行規制区間であり、通行止めの際は大幅な迂回が発生するため、改良後において災害危険性の低減などによる輸送経路の信頼性向上に期待しています。
- トンネル前後の線形不良箇所(急カーブ、急勾配)の改善による、傷病者及び救急隊員の負担軽減と、それに伴う救急医療サービスの質の向上が見込まれます。



消防署所長

出典: ヒアリング結果(名古屋国道事務所実施)

特産物を活かした地域活性化

稲武地区には愛知県農業総合試験場山間農業研究所があり、お米の品種改良が盛んなことから、「お米のふるさと」と言われています。

道の駅「どんぐりの里いなぶ」では、平日でも行列ができる人気商品「米粉パン」等、地域の特産品を活かしたオリジナル商品を多数販売しており、伊勢神改良事業による観光客の増加と、相乗効果による地域活性化が期待されています。

◆地場産品を取り扱う道の駅「どんぐりの里 いなぶ」

＜稲武産「ミネアサヒ」を使用した「米粉パン」＞



＜「米粉パン」に並ぶ行列＞



写真提供：いなぶ観光協会

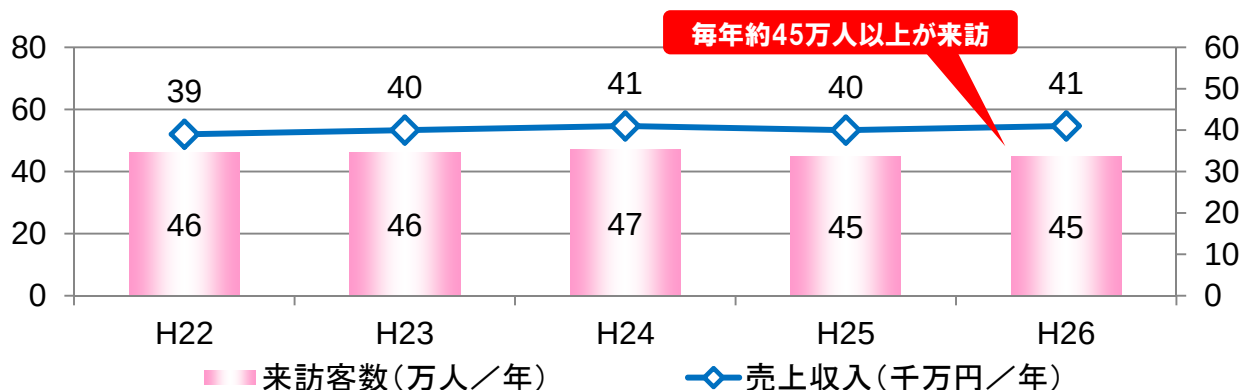
＜イベント「ジビエ・グルメ・グランプリ」の開催＞

- ・年々増加傾向にある野生鳥獣による農作物被害の防止強化とともに、捕獲したイノシシやニホンジカを地域資源として有効活用する事業として、様々なオリジナルのジビエ料理を競う「ジビエ・グルメ・グランプリ」を開催しています。



資料提供：道の駅「どんぐりの里 いなぶ」

＜道の駅内「どんぐり横丁」の利用客数・売上の推移＞



データ提供：道の駅「どんぐりの里 いなぶ」

利用者の声

地域の特産物を発信する追い風に

- ・地域の特産品を活かした「米粉パン」や「炭焼きフランク」が人気であり、毎年開催している「ジビエ・グルメ・グランプリ」には、多くの方に来訪して頂いています。
- ・伊勢神改良による来訪者増加を見据え、地域活性化に向けた取り組みを検討しています。



稲武商工会

出典：ヒアリング結果(名古屋国道事務所実施)

国道153号足助バイパス 整備効果について

[発行]

平成27年12月

[著者]

国道153号足助バイパスのストック効果検討会

[事務局]

国土交通省中部地方整備局 名四国道事務所 調査課

[足助部会]

豊田市役所社会部 足助支所

足助自治区

足助商工会

足助まちづくり推進協議会

足助観光協会

とよた山里ホールディングス

三州足助公社

豊田市役所建設部地域建設課

[稲武部会]

豊田市役所社会部 稲武支所

JAあいち豊田稲武営農センター

地域の中核企業(2社)

稲武商工会

いなぶ観光協会

どんぐりの里いなぶ

豊田森林組合稲武支所

豊田市社会福祉協議会稲武支所



国道153号足助バイパスの ストック効果検討会

【事務局】

国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所
〒467-0847愛知県名古屋市瑞穂区神穂町5番3号
TEL:052-823-7911